

○減農薬減化学肥料米や伝統野菜の栽培

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	山形県東置賜郡 ひがしおきたまぐん 川西町 かわにしまち 東沢 ひがしざわ			
協定面積 57.2ha	田 (100%)	畑	草地	採草放牧地
	水稻、大豆、そば等			
交付金額 1,200万円	個人配分 50%			
	共同取組活動 (50%)	役員報酬、体制整備	12%	
		水路・農道の整備	40%	
		事務費・積立	48%	
協定参加者	農業者 85人、農業生産法人 1、非農業者86人			開始：平成12年度
人・農地プランの作成状況	集落全体で作成済			

2. 取組に至る経緯

東沢集落は、本町の南西に位置し、戸数 188 戸、人口 732 人が暮らす中山間地域にあり、水稻を主体に米沢牛の産地として畜産も盛んである。

しかし、農業者の高齢化・担い手減少により集落の活力低下が懸念されたことから、平成 12 年から本制度に取り組み、共同活動の他、少子化問題への対応として、都市部からの山村留学や環境にやさしい水稻栽培、伝統野菜を活かした作物生産等を実践してきた。

3. 取組の内容

東沢地区には、以前から地区のまちづくりやそのための活動を実践する協議会（東沢地区協働のまちづくり推進会議）があり、その推進方向の 1 つである東沢産米のブランド化推進のため、集落全体で里地の農地保全活動を始め、堆肥散布による土づくり、減農薬・減化学肥料の水稻栽培（39ha）に取り組んでいる。

また、山村留学を契機に米の流通販売を行う会社（株東沢米翔）を平成 19 年に設立し、首都圏のおむすび専門店へ米の契約販売を開始。平成 20 年度からは農業生産法人（農事組合法人夢里）が伝統野菜である紅大豆を活用したオーナー制を行っており、オーナーが参加する栽培や収穫、また、味噌づくり等の農業体験にも取り組んでいる。



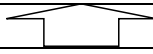
【紅大豆オーナー制による栽培】



【自然学習園でのハッコウトンボ 観察会】

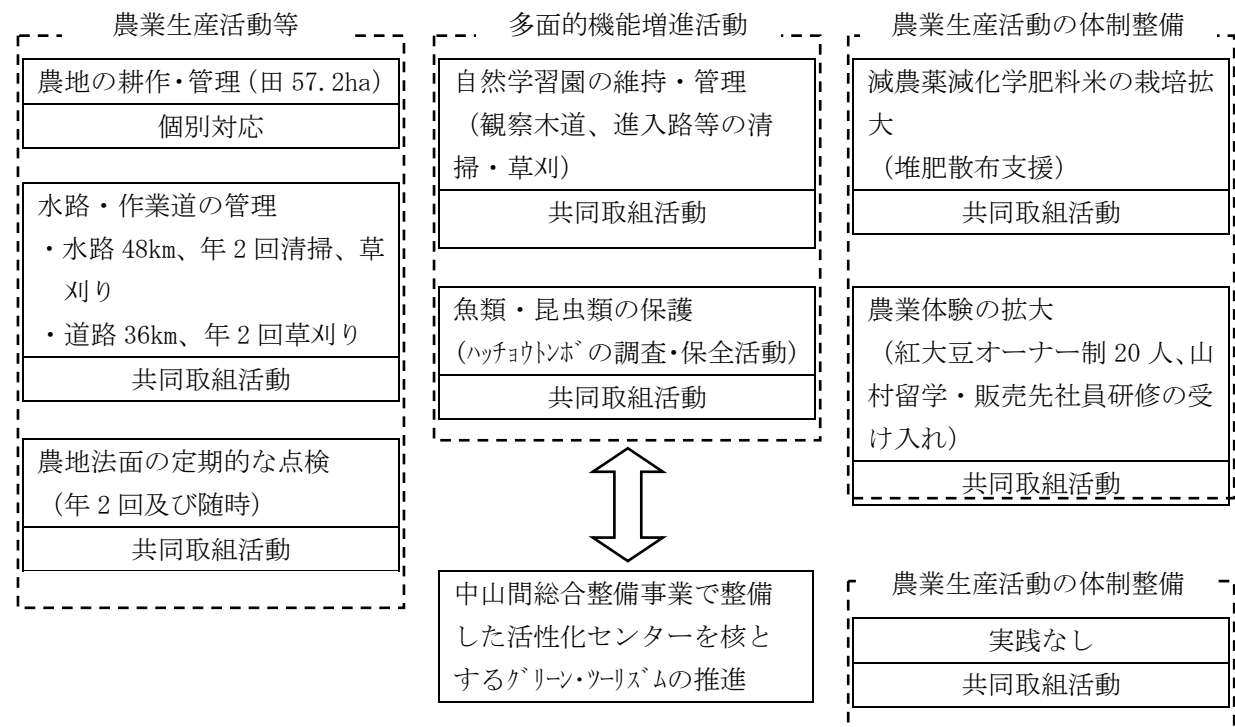
【集落の将来像】

農村集落の高齢化・少子化に対応するため、山村留学を核とした交流事業の拡大、減農薬減化学肥料米や伝統野菜の栽培・加工・販売による農業の振興を図っていく。地域の目的に合致した各種事業を活用し、その中で中山間地域等直接支払制度による農地の保全・農業用施設の適切な維持管理を実践し、農村集落の活性化を促進する。



【将来像を実現するための活動目標】

- ・水路等の農業用施設の維持管理により、生産性の向上を図る。
- ・環境にやさしい農作物の栽培・販売の拡大を図る。
- ・活性化センターを拠点とし、都市交流・農業体験の充実を図る。



【集落外との連携】

農業用施設の保全管理、交流基盤の整備を図り、山村留学を契機とした都市部との交流、農産物の販路拡大等による農村集落の活性化を拡大する。

4. 今後の課題等

高齢化・少子化等の課題に対し、地域住民による取り組みにより都市交流・農業生産の拡大を図る。

【第 2 期対策の主な成果】

- 農業用水路へのコンクリート水路敷設・補修工事
- 減農薬減化学肥料米圃場への堆肥散布支援
- 自然観察園の木道整備
- 紅大豆オーナー制の支援